
夜明けの東京

花吹雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜明けの東京

【Nコード】

N9340A

【作者名】

花吹雪

【あらすじ】

日常の生活に疲れた主人公の女が、前に進むために過去の思い出や、気持ちを整理していく物語です。

紫の空

三杯目のおかわりをしに私は台所に向かう。

四角いグラスに氷を足してその上からゆっくりゆっくり黄金色の液体を注いだ。

液体は氷をつたってグラスに溜ってゆく。

肘を突いて子供が水槽の中を眺めるかのようにグラスの中をのぞくと黄金色の液体は蜃気楼の様に揺らいでいる。

そのうっとりする程美しい色も、舌のとろけるような味も、私には十分過ぎる程甘美な世界に連れていってくれるのだ。

そつとグラスの中を指で掻き混ぜながら部屋に戻るとさっきまで少し星が見えていた空が明るくなりだしてきている。

窓辺立ちグラスに口を付けながら空を眺めているとだんだんと空は変化を始める。

雲の切れ間から覗く空は薄い紫色に染まり所々朝日が金色のシャワーのように光が射している。

私はあまりの美しさに見とれていた。そしてあの日の君の言葉をふと思い出してた。

夜の隠れ家

目が覚めるともう昼をとっくに過ぎていた。

ベッドの中で朝方見た空と遠い昔に愛した男の事を思い出していた。男はよくこんな事を口にした。

「東京の人は可愛そう、一生、あの小さな箱みたいな家にすんで汚れた空の下で毎日せかせか働いて」

と、当時私はその言葉を聞いてこの人とはずっと居られないと直感した。この人は東京から居なくなってしまうと……。

昔の淡い気持ちが甦って来て少しせつなくなった。

はかなく消えてしまった物ほど愛しいものだ。

あれは、もう過去の話で消えていった思い出にすぎない。

少しだけ物思いにふけた後バスルームに行きお湯をためる。

部屋から持ってきたピンク色の可愛らしいビンに入った香水の蓋をとりバスルームに吹き掛ける。

甘い甘い香が広がって柔らかな気持ちになる。

真っ赤なペディキュアの足をバスタブに沈めて窓から注ぐ光のシャワーに目を細めた。

気が済むまでバスタイムを満喫した私は体にバスタオルを巻き部屋に戻ると出掛ける支度を整えた。

4月とはいえ夕方になるとまだ肌寒い。トレンチコートの襟を立てながら私は行きつけのバーへ急いだ。

古い煉瓦の階段を下りて木製の古くて重いドアを開けるとまだ客は来ていない。中に入るとカウンターの奥にマスターがいる。

煙草をくわえながら煙に目を細めグラスを磨いている。

カウンターに近づいてゆくとヒールの音に気が付いたマスターは顔を上げると静かに微笑んだ。

「よう、しばらくぶりだなあ、違う店に浮気してたか？」

「違うよお仕事が忙しかったの、あと色々有ってさあ」

そう言いながら一番奥のカウンターに腰掛けてビールを頼んだ。

「その色々をまた俺に聞いてもらいに来たのかあ？ 良いけど高えぞ！！」

「ぜってえ話さねえし！」

マスターは私の反論に豪快に笑いながらビールを注いで私の前のカウンターの上に置いた。

マスターは私より2才歳上で年も近いので友達のように話せる。私がこのバーに通う理由の一つはそこにある。

カクテルグラスに入ったナッツを一口に入れて噛むと甘い油が広がって、すーっと消えていく。

私はマスターと最近の仕事状況や世間話をしてその間にチーズや鮪とアボガドのサラダとビールを3杯おかわりして調子が出始めてビールがウイスキーに変わった頃

「何か有ったの？」

とマスターは私の顔を覗き込んだ。

「えっ？ 何で？」

急に優しくなったマスターの声のせいで心にピンと張った糸が少しゆるんだ。

「何でって、何か有ったんだろ？ 女も27にもなれば色々あんだろ。今日は客もお前だけだしゆっくり聞いてやるよ。今日だけ無料で聞いてやるからさっさと本題に入れよ。」

ぶっきらぼうだけど温かいマスターの言葉に私は最近自分の身に起こった事を少しずつ話す気になってゆっくり語りだした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9340a/>

夜明けの東京

2010年10月9日01時52分発行